

令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第8号

令和2(2020)年11月20日
栃木県農業環境指導センター

病害虫を早期に発見し、発生初期から適切に防除しましょう。

予想期間 11月下旬～12月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率、平年比0%：株率)。(－)
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
(－～±)
- (3) 対 策 ・日照不足等で、株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、温度管理やかん水を適切に行う。
・発生初期にフルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるよう散布する。曇雨天時にはくん煙剤を使用する。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比80%：ほ場率、平年比71%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並または多い。(＋)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
- (4) 備 考 ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比212%：ほ場率、平年比－%：株率)。(±)
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
(－～±)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないよう、換気に努めるとともにかん水量に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いて通風を図る。
・発病葉、発病果や花卉は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を主体にセイビアーフロアブル20等を葉裏にもよくかかるよう散布する。
・発生が見られたら、パレード20フロアブル等を散布する。
- (4) 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト 黄化葉巻病(TYLCV)

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比58%：ほ場率、平年比0%：株率)。(－)
・トマトのコナジラミ類の発生量はやや少ない(平年比54%：ほ場率、平年比100%：株率)。(－)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並または多い。(コナジラミ類の発生＋)
- (3) 対 策 ・黄色粘着板を設置し、媒介虫の成虫を捕殺する。また、コナジラミ類の成虫が見られる場合は、アニキ乳剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。
・発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ビニール袋などで密封し、枯死させてから処分する。
・耐病性品種も本病に感染すると、伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。
- (4) 備 考 ・[防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い（平年比 191%：ほ場率、平年比 100%：株率）。（+）
・向こう 1 か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
（－～±）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないよう、換気に努めるとともにかん水量に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いて通風を図る。
・発病葉は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を主体にネクスターフロアブル等を葉裏によくかかるよう散布する。

6 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（平年比 47%：ほ場率、平年比 7%：葉率）（－）
・向こう 1 か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
（－～±）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないよう換気やかん水量に注意する。
・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
・予防を主体にランマンフロアブル等を散布する。
- (4) 備 考 ・[べと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 なら アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量が多い（平年比 679%：ほ場率、平年比 769%：株率）。（+）
・向こう 1 か月の平均気温は高く、日照時間は平年並または多い。（+）
- (3) 対 策 ・雑草はアザミウマ類の増殖源となるので、ハウス内外の除草を行う。
・早期発見に努め、密度の低い時点でスピノエース顆粒水和剤等を散布する。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	やや少	きゅうり	コナジラミ類	平年並	やや多
いちご	アブラムシ類	やや少	平年並	なら	白斑葉枯病	平年並	平年並
トマト	コナジラミ類	やや少	平年並	きく	ハダニ類	やや少	平年並
きゅうり	うどんこ病	やや少	やや少	きく	アザミウマ類	少	やや少

○ イネ縞葉枯病（RSV）

ほ場の再生稲（ひこばえ）は、本病原ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息地や病原ウイルスの獲得源になります。早期の丁寧な耕起により、次年産での本病の発生増加を防ぎましょう。

○ 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

☆ 農薬は適正に管理し、正しく使いましょう。

☆ 同一系統の連用を避け、RACコードを参考に異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報（予報期間 11月21日から12月20日 11月19日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに 40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに 40%です。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	40%	40%	20%
日照時間	20%	40%	40%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせは、ツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターHP（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でも御覧になれます。